

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

保護者等からの事業所評価の集計結果									
公表									
事業所名		てらびあぼけっと朝霞駅前教室							
公表日		令和8年 1月 20日							
利用児童数		60名		回収数 44名		割合 73%			
		チェック項目	はい	どちらとも いいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	41	2	1		・広々と動き回っている姿がある。	玩具棚の配置を見直し、動線を整理することで、安全に動き回れる広々とした活動空間を整えています。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	39	4	1		・個別の対応をしっかりとされている。 ・1対1で丁寧に見てくれている。	人員基準は満たしておりますが、急な欠勤等によりご不安を感じさせていただきましたことを真摯に受け止めております。今後は急な体制変更時にも安定した支援を提供できるよう、職員間の連携強化とバックアップ体制の整備を徹底し、安心してお願いいただける環境を整えてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	41	2		1	・室内は問題ないが施設が階段であるため。	施設の構造上、階段があることでご不便やご不安を感じさせてしまいました。ハ職員による昇降時の付き添いや安全な誘導を徹底し、お子様の特性に応じた丁寧な介助を行うことで、安全確保に最優先で取り組んでまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	43			1	・いつも清潔にされてある。	今後も継続してまいります。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	44				・子どもに合わせてスピードも合わせてくれている。	それぞれの専門性を高めていけるよう今後も研修の受講など積極的に進めていきます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	42	1		1		公表している支援プログラムと実際の活動内容の関連性が、分かりにくかった点について改善に努めてまいります。今後は日々の活動報告にプログラム上の目的を明記するなど、どのような専門的意図を持って支援を行っているかを積極的に発信し、透明性の高い支援に努めてまいります。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	42	2				個別支援計画の作成にあたり、分析の根拠や意図が十分にお伝えできていなかった点に留意いたします。今後は、アセスメント結果に基づいた具体的な目標設定のプロセスをより丁寧に説明し、保護者様との共通認識のもとで、一人ひとりのニーズに寄り添った計画作成を徹底してまいります。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	41	1		2		計画にある『本人・家族・移行』の各支援の目的と、それぞれの領域でどのような具体的支援を行っているかを明確にお伝えしてまいります。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44					支援に入る職員は、都度個別支援計画を確認して、プログラムと照らし合わせるよう努めておりますが、何かお気づきのことがありましたらいつでもご相談下さい。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	39	3		1	・その時々課題を見付けて対応してくれている。	今後はフィードバックの際、プログラムの意図をより丁寧に説明し、保護者様のご意見を積極的に伺う機会を設けます。ご家庭と連携しながら、その時々のお子様最適なプログラムを柔軟に構築してまいります。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18	6	13	7	・当てはまる活動が無い限りありませんでした。 ・まだお願いしたことがないため、今のところ機会はありません。 ・別に無くて良い。	教室内での個別セラピーが主な支援の為、地域交流はありませんが、地域の子育て情報等の発信はしているよう取り組んで参ります。	
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	43			1		契約時のご説明内容が、その後のご利用期間中も常に明確であるよう努めてまいります。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	44				・毎回丁寧です。	今後も継続してまいります。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29	8	1	6	・ペアトレはありませんが毎回のフィードバックが役立ってます	家族支援プログラムについては現在実施に向けた検討段階にあり、十分な機会を提供できていない現状を真摯に受け止めております。今後は保護者様のニーズを伺いながら、まずは専門情報の定期的な提供を行い、ご家庭と一緒に歩む支援体制を強化してまいります。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	42	1		1	・登降園時に伝えあうことができています。 ・先生方の情報共有もしっかりとできて安心します。 ・お迎え時に丁寧にフィードバックしてくれている。	今後も継続してまいります。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	42	1		1	・療育後は必ず話をする時間がある。	フィードバックの時間で共有しきれない時には、個別の面談も随時受け付けておりますので、ご相談いただければ対応をして参ります。	

	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	41	2			無回答1 ・「～できない」といった否定的な話のみ共有される場合があります。「～まではできる」「～するとよくなってくる」といった参考となる話までセットで共有されるとよいと思います。 ・保護者の声にしっかり耳を傾けてくれる。	今後は、課題のみを伝えるのではなく、『現在できていること』や『今後の改善に向けた具体的な見通し』を必ずセットでお伝えするよう、職員の接遇と報告のあり方を改善し、より共感的で前向きな支援に努めてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	9	14	11	無回答1 ・不要だと思います ・兄弟はいないので、保護者の交流は必要性を感じていません ・当てはまる活動が思い当たりませんでした。 ・無くて良い。	アンケートを取らせていただき、ニーズに応えていけるよう、検討致します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていると思いますか。	37	5		2	・すぐに対応してくれたり、保育所との連携も図ってくれた。	全職員が、保護者からのご相談に対して迅速に対応できるよう体制を強化して参ります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	41	1		2		お子様のサインを汲み取った支援内容を具体的に共有するとともに、保護者様への相談環境の整備をしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35	3		6		不定期ではありますが、ブログとSNSの発信を行っております。ブログアップの際はボードにてお知らせをしております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	42	1		1		個人情報研修を行い、今後も個人情報の取扱いについては十分気をつけていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	31	4	1	8	・説明は丁寧にしていたが、訓練に参加できていないため。	職員間では周知できておりますが、保護者様への周知ができていなかったため、保護者様がいつでも目を通せる場所に置くようにしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	6	1	11		避難訓練の実施はブログ等でお知らせを行っておりますが、今後も訓練はその都度周知をしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34	4		6		安全計画を作成し、お子様が安全に過ごせるための取り組みを行っております。より、安心してお預けいただけるよう、共有して参ります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	6	2	8	・転んだ時に動画で確認させてもらいながら説明があった。	ヒヤリハットを毎日確認、記録し、大きな怪我の防止に努めております。また、安心して預けていただけるよう外傷がなくとも、ヒヤリハットが起こった際は動画での保護者様と確認を行っていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	44				・慣れてくると笑顔で通所するようになった。	毎回、楽しみに通所していただき、ありがとうございます。お子様の成長を伝えていただく度、大変嬉しく感じております。今後もお子様、保護者様に寄り添った支援が行えるよう、職員一同、取り組んで参ります。今後ともよろしくお願い致します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	43	1			・とても楽しみにしている様子です。 ・先生だけでなくお友だちも好きみたいで楽しみに通所している。 ・とても楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	44				・優しくあたたかい先生ばかりで大満足です。いつもありがとうございます。 ・どの先生方も優しく丁寧でこちらに通えてよかったと感じています。いつもありがとうございます。	

事業所における自己評価結果						
公表						
事業所名		てらびあぼけっと朝霞駅前教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	仕切りを使ってスペースを確保している。	利用児童を5人受け入れる際に迷う点がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	4	トイレの扱いが不安なこどもには、付き添っている。	トイレの便座が大人使用のため、足場を購入する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	セラピー用の個室を3つ設置している。こどもが個室に入りたいと要望があれば、個別セラピー以外の時間にもクールダウンのために、職員とともに入室できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	職員会議で議題を募り、毎月教室の課題について話し合う機会を作っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	年に一回実施し、評価表を全員が読み、意見を出し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	意見がある時には会議や面談で検討する場合は設けている。	検討した内容がどのように反映されたかまで周知していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1		第三者評価については実施に向け検討中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	本部の研修を受ける機会を設けている。事例検討会や勉強会を開き、他教室にもオンラインで参加してもらい、第三者からの意見を伺い、スキルの向上に努めている。	日々の支援以外の時間確保が難しく受けた研修が受けられていないこともあり、時間を捻出するための工夫が必要。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	モニタリング時には、事前アンケートを取った上で、ニーズ聞き取るようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	職員間で意見を出し合っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	職員全員が計画を確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	本部のアセスメントを参考にするだけでなく、保護者や園から情報を聴取し参考になっている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	チーム内で話し合う機会を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	事例検討会を実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	個別セラピーの時間と小集団活動やペアセラピーの時間を作り、支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	朝礼で全体での共有事項を確認する時間を設けている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	終礼で実施。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	検証が必要な子を挙げ、チーム間で話し合う機会を作っている。	さらなる行動分析の充実を図っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	相談員との連携は定期的に行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	地域との連携の機会は少ないが、園訪問を行い関係機関の連携は必要時行っている。	他の療育先や、園訪問等行っているが、必要に応じて回数も増やしていけるようにしている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	保護者からのニーズに合わせて園との連携を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2	小学校に提出する書類等、保護者からの申し出に対して対応を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			地域連携の交流会に参加し、同地域の事業所との交流を持っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	7	個別支援が主なため、地域との連携は取っていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	セラピー後のフィードバック時に機会を設けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	5		ベアトシの研修を受講した職員がいる為、中心となって実施できる方法を検討していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時に説明、質問を受け付け、ご理解いただけるよう取り組んでいる。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	モニタリングでヒヤリングする際には支援内容の優先順位までの話し合いを持っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0	署名をいただく際に、計画書を提示しながら内容を説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育てでの悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	相談があった際だけでなく、こちらからも声をかけ、面談の機会を作っている。	タイムリーに面談の機会を持つことが難しいため、ご家族様から安心して過ごせるように、面談以外にも相談手段を考えていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしている	2	7		現状、実施できていないが、ニーズがあればどういった形で実施していけるかアンケートなど活用して検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	契約時には丁寧な説明を心掛けている。	契約時以外にも定期的に相談体制をとっていることを周知していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	6	不定期ではあるが、ブログ更新を行っている。	更新した際は、保護者にお知らせをする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報の取り扱いについては職員に指導をおこなっている。	個人情報に関する事故報告が数件あった為、今後研修を定期的に行っていく予定。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8		行っていない。必要とされた際は、検討をしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		マニュアルは作成しているが、保護者への周知が足りていないので、いつでも閲覧できるように対応する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0		策定・訓練の実施をしているが、保護者へ周知されていないため、活動内容をお知らせしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	2		現在、必要な利用者なし。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	2		食事提供を実施していない為、対応は行っていないが、アレルギーの有無については確認を行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		今まで周知することができていなかった為、今後配信等で行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	終礼でその日のヒヤリハットを報告、翌日の朝礼でも共有し、全体での周知に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	1	契約時に説明、記載をしている。	

事業所における自己評価総括表				
公表				
○事業所名	てらびあぼけつと朝霞駅前教室			
○保護者評価実施期間	R7年 11 月 12 日 ～ R7年 11 月 20 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数)	44名
○従業者評価実施期間	R7年 12 月 10日 ～ R7 年 12 月 15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1 2 月 20 日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種チームによる「専門性の高い個別支援」	多職種連携：ST、PT、公認心理師、保育士、指導員の各視点を組み合わせ、一人の子供を多角的に分析している。 根拠のある計画：保護者の意向を、専門的な知見から「具体的な目標」に落とし込み、納得感のある説明を行っている。	専門職カンファレンスの定例化：定期的に各専門職が意見を出し合い、「なぜこのアプローチが必要か」という根拠をより明確にし、支援内容のブラッシュアップを常に考えていく。
2	個別と小集団をバランスよく組み込んだ「多機能なカリキュラム」	現状の工夫と意識：一人ひとりの課題にじっくり向き合う「個別指導」と、お友達との関わりを学ぶ「小集団活動」をバランスよく配置している。これにより、子供が無理なくステップアップでき、「通うのが楽しい」と思える充実した時間（適切なスペースでの活動）を提供している。	小集団活動において、専門職が介入する「対人関係スキルトレーニング」のバリエーションを増やし、個別で獲得したスキルを、集団の中で「できた！」という自信に繋げる機会をさらに創出する。
3	子供が「意欲的」に過ごせる、安全で配慮の行き届いた環境	「構造化」による自立支援：言葉だけでなく、写真やイラストを用いた視覚的なスケジュール提示を強化し、子供が「次はこれをするんだ」と見通しを持って主体的に動ける工夫を深める環境を作っている。	安心・安全の土台作り：清掃・衛生管理の徹底やバリアフリーへの配慮により、子供が心身ともにリラックスして活動に集中できる物理的環境を整えていく。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会・関係機関との外部連携の不足	日々の個別療育や保護者対応にリソースを集中させており、学校や他事業所と直接連携するための時間や担当窓口が確保できていないことがある。	「個別的教育支援計画」との整合性を図るため、まずは書面（情報共有シート等）のやり取りから開始し、徐々に担当者会議への出席を定例化する。
2	事業所情報の公開・透明性の欠如	情報発信の頻度が低く、更新作業を担うスタッフの負担や、個人情報保護への配慮から慎重になりすぎて発信が滞っている。	コドモンアプリでの配信、掲示板など、無理のない範囲から「見える化」を始める。自己評価結果は速やかにHPや玄関先に掲示し、運営の透明性を確保する。
3	安全管理・コンプライアンスに関する周知不足	マニュアルの整備や内部研修は実施しているものの、その内容を保護者に対して十分に説明・共有できておらず、緊急時の対応や権利擁護の取り組みが伝わりきっていない。	非常災害時マニュアルの要点をまとめた資料の配布や、避難訓練の様子を共有することで、安心感を具体化する。虐待防止や身体拘束適正化への取り組みを明文化し、保護者に周知する。